

Small Talkのネタ帳（1学期・4～7月）

領域・形態・時間	話すこと [やり取り] 全体・ペア 帯1～2分×2回
ねらい	1学期のSmall Talkの話題を、月ごとに9つ。先生が話す1文と、子どもに投げる1問だけを載せてあるので、中身は自分の話に差し替えて使う。

やり方 1分×2回の型（どの話題でも同じ）

- 1

Look. This is my

先生が2～3文だけ話す（写真か実物を1つ見せると英語が短くて済む）
- 2

Do you like ...?

1問だけ投げる→となりの人と1回目（1分）。5年は全体で答えるだけでよい
- 3

How do you say it in English?

中間指導。言えなかったことを聞き、黒板に足すのは3つまで
- 4

Change partners. One more time!

相手を替えて2回目（1分）。増やしたいのは話す量ではなく2回目の質

4月 出会いの月——先生を知ってもらう話題から

話題	先生の1文（そのまま言う）	子どもに投げる1問
先生のなまえ	Hello. I'm Mr. Sato. S-A-T-O.	What's your name? 5年は名前だけ／6年はつづりまで
先生のすきなもの	I like curry. Curry and rice. Yummy!	What food do you like? 4月中は同じ問いを毎回使ってよい
天気ときぶん	It's sunny today. I'm happy.	How are you today? 1年を通して使える定番の1本

5・6月 くらしの月——自分のことを言える話題へ

話題	先生の1文（そのまま言う）	子どもに投げる1問
たんじょう日	My birthday is June 5th. June fifth!	When is your birthday? 月だけ言えれば十分
先生の1週間	I have English on Monday. Monday is my favorite.	What day do you like? 時間割の話は全員が持っている
できること	I can swim. But I can't ski.	Can you swim? できないことも言う空気ゆるむ

7月 夏の月——体感とつながる話題は英語が短くて済む

話題	先生の1文（そのまま言う）	子どもに投げる1問
夏のたのしみ	Summer is coming. I like summer festivals.	Do you like summer? Yes / No で全員が入れる
たべたいもの	It's hot! I want ice cream. Vanilla, please.	What ice cream do you want? 味の名前はカタカナでよい
行きたいところ	I want to go to the sea this summer.	Where do you want to go? 地名は日本語でよい

だまってしまったときの3手 沈黙は子どものせいではなく、問いの形のせい

手	言いかえてみる	なぜ効くか
二択にする	Curry or sushi?	考える中身が減る。英語ではなく「何を答えるか」で迷っていた子が入れる
手を挙げてもらう	Curry fans, raise your hands!	声を出さずに参加できる。挙げた手を数えるだけで教室が動く
先生が先に答える	What food do you like? ... I like curry!	答え方の見本を先に見せる。5年の1学期はこれを毎回やってよい

反応のことは毎回そだてる——Me, too! / Really? / Nice! / Pardon? / And you? の5つだけを黒板の端に出しっぱなしにしておく。

ルール

Small Talkの3つのきまり ①**先生の本当の話にする**——この紙の英語は言い方の見本です。中身を自分の話に置きかえたときだけ子どもが前に出てきます ②**1回で終わらせない**——中間指導をはさんで相手を替えた2回目までが1セット。回数ではなく「2回目があること」が力になります ③**まちがいを直さない**——日本語まじりの答えは、直すのではなく英語で返してあげる (Oh, you like soccer! Nice!)

☆**レベルアップ!** 慣れてきたら、投げる1問を子どもに作らせる。「先生に聞きたいことがある人？」で手が挙がるようになったら、その学級のSmall Talkは完成です。質問が子どもから出た日は、先生の話は1文でよい。

先生へ（運用のコツ・中間指導）

- ・ Small Talkは2時間に1回＝1学期におよそ12回。この9本と、単元パックのSmall Talk台本（各単元2本）を合わせれば1学期は足ります
- ・ 4月は「先生のことを話す」に寄せてある。子どもに自分のことを話させるのは、先生が先に3回話したあとでよい（先に聞かれると、英語ではなく内容で身構えます）
- ・ 5年は先生の話聞くのが中心、6年はペアのやり取りが中心。同じ話題でも、型の②④を「全体で答える」か「ペアで往復する」かで分けます
- ・ 週替わりの完成台本（6～8行・音声つき）はサイトの連載「今週のSmall Talk」にあります。この紙は学期を見わたして自分で選ぶための1枚です